



インドにおける児童婚

ウテ・ショルツ国際会長の現地視察
2022年10月/11月

1

児童婚は、最悪の人権侵害の一つです。

世界では、21%の少女がまだ子どものうちに結婚し、子ども時代と教育を受ける権利を奪われています。

国際ゾンタは2014年から児童婚の終結を支援し、2018年からはUNFPAと米国ユニセフと協力し、"児童婚を終わらせるグローバルプログラム"を実施しています。

UNFPAは、国連人口基金で、米国ユニセフは、国連児童基金を支援する米国の非営利団体です。

2022年10月から11月にかけてウテ・ショルツ国際会長がインドでこのプログラムの現地視察に参加し、この発表では、ゾンシャンやゾンタ女性財団のすべての寄付者が、これらの寄付の効果や影響について生の情報を得られるよう、この視察について報告します。

出典：UNFPA-UNICEF「児童婚を終わらせるグローバルプログラム」プログラム文書およびWikipedia

UNFPA-UNICEF

「児童婚をなくすためのグローバルプログラム」

**end
child
marriage**
A voice. A chance. A future.

段階 I
2016 – 2019

ゾンタの参加
2018-2020

段階 II
2020 – 2023

ゾンタの継続
2020 – 2022
2022 – 2024

段階 III
2024 – 2030

検討中



2

ゾンタは2014年から児童婚の終結を支援しており、2014年から2018年までニジェールでの早期結婚を遅らせるために200万米ドルを拠出しました。2018年から2022年まで、ゾンタはUNFPA-UNICEFの「児童婚を終わらせるグローバルプログラム」に350万米ドルを拠出しました。

この2年間（2022–24年）、国際ゾンタは、このプロジェクトの第II段階を支援するために、米国ユニセフに120万米ドルを拠出しました。

現在 8つの寄付者 = 運営委員会のメンバー

以下の政府と団体

ベルギー

カナダ

イタリア

オランダ

ノルウェー

英国

「Spotlight Initiative」を通じた欧州連合

そして、国際ゾンタ



3

現在、このプログラムを支援している8つの寄付者は、いずれも運営委員会のメンバーです。そのため、プログラムの成果に関する報告を受け、次の第III段階（2024年ー2030年）をどのように企画するか近々決定する予定です。

寄付者は、以下の政府と団体です。

ベルギー

カナダ

イタリア

オランダ

ノルウェー

英国

「スポットライト・イニシアチブ」を通じた欧州連合

そして、国際ゾンタ

ゾンタは、このグローバルプログラムへの初の、そして今のところ唯一の民間セクターの寄付者です。これは大変名誉なことであり、女性の権利を強化し、世界中の女性のエンパワーメントのための国際ゾンタの幅広い活動と成功を認められたものです。

1945年の国連創設以来、ゾンタは国連とパートナーシップを組むために招聘された

最初のNGO（非政府組織）のひとつであり、国連とその機関とは非常に深いつながりがあります。

この写真は、先日、プログラムの現地視察のためにインドで開催された運営委員会の代表者たちです。

プログラムの優先事項

児童婚が多い12カ国において、思春期の少女を変化の担い手として関与させる：



バングラデシュ
ブルキナファソ
エチオピア
ガーナ
インド
モザンビーク
ネパール
ニジェール
シエラレオネ
ウガンダ
イエメン
ザンビア

4

このプログラムの優先課題は、ここに挙げた12カ国において、思春期の少女たちを変化の担い手として関与させることです。

これらの国々は、児童婚の普及率が高く、政府がこの慣習を変え、国連機関やNGOと協力して変化をもたらすことに同意した国々です。

インド = カラフルな国

- 世界最大の民主国家
- 28の州、9の連合準州
- 急成長する経済
- 多様な文化や言語



5

まず、亜大陸としてのインドを感じてください。

インドはとてもカラフルな国です。

28の州と9の連合準州からなる世界最大の民主主義国家です。

文化や言語の多様性が高く、経済成長も著しい国です。

インド = 多様性に富んだ国



- 22 の公用語：ヒンドゥー語が最も話されている言語 (44%)
- 都市と農村の大きな格差
- 2,000を超える民族
- 多様なカーストと部族
- 80% ヒンドゥー教徒, 15% イスラム教徒, 2.3% キリスト教徒,そして様々な少数派宗教

6

また、インドは非常に多様性に富んだ国でもあります。

22の公用語がありますが、ヒンドゥー語は最も話されている言語で、人口の44%が話しています。

また、都市と農村の格差が大きい国でもあります。

インドには2,000以上の民族があり、非常に多様なカーストや部族社会が存在します。

人口の80%がヒンドゥー教徒、15%がイスラム教徒であるが、ここ10年でヒンドゥー教徒が減少し、イスラム教徒が増加しています。インドは非イスラム教徒が多数を占める国としては最大のイスラム教徒人口を有しています。

次に多い宗教グループはキリスト教徒で、人口の2.3%を占めています。その他には、シーク教徒、仏教徒など、実にさまざまな少数派宗教が存在します。

インド = 人口が多い国

- 世界で2番目に人口の多い国
(13億8千万人)
- 世界人口の1/6
- 思春期の若者の人口が最多：
人口の1/5が10～19歳
- 平均年齢: 28.7歳



7

インドは人口の多い国です。

インドは中国に次いで世界で2番目に人口の多い国（13.8億人）です。
世界中の人口の6分の1が住んでいます。

インドは思春期の若者の数が最も多く、人口の約5分の1が10～19歳です。
これはまさに児童婚の脅威にさらされている年齢層です。

インド人の平均年齢は28.7歳です。

インドの女性達

インド憲法:

スポーツ、メディア、仕事、科学、技術、
同一労働同一賃金への全ての女性の
参入を保証する。

女性と少女の権利を守るための幅広い
法律と司法権



8

インドにおける女性の地位は、歴史の中でさまざまな変化を遂げてきました。

現在、インド憲法はすべてのインド人女性の平等、無差別、機会均等を保証しています。

教育、スポーツ、メディア、仕事、科学、技術、そして同一労働同一賃金への女性の完全な参入を保証しています。

女性と女性の権利を守るために、国全体として膨大な法律と司法権が存在します。

インドの女性達

しかし:

インドは女性にとって世界で最も危険な国である。(トムソン・ロイター財団、ロンドン、2018年)



9

とはいえ、インドは女性にとって世界で最も危険な国だと言われることが非常に多く、例えば、人権と女性の権利に焦点を当てているトムソン・ロイター財団（ロンドン）が2018年に述べました。

これは、特に地方において、書面による法的状況と現実の生活や習慣との間に大きな乖離があることを示しています。

インドの女性達



- ▶ 女性の地位は家族関係と結びついている。
- ▶ 階級制度、家長制度
- ▶ 法的結婚年齢：
女子: 21歳
男子: 18歳
- ▶ 結婚に伴い、花嫁は夫の実家に移る。
- ▶ 結婚の多くは見合い結婚
- ▶ 花嫁の家族からの持参金

10

インドにおける女性の地位は、家族関係と強く結びついています。

インドでは家族は極めて重要であると考えられており、家族単位は多世代にわたり、階層的で家父長制をとっています。年長者は若い世代に対して、男性は女性に対して権限を持ちます。

女子の法的結婚年齢は21歳、男子は18歳です。これは驚くべきことで、他の多くの国よりも高い年齢です。現在、男子の年齢も21歳に引き上げようという議論が出てきています。

結婚すると、花嫁は義理の家族と一緒に暮らすようになります。

結婚の多くは見合い結婚で、家族は自分のカーストや部族の中でふさわしい配偶者を探します。

花嫁の家族は持参金を渡さなければなりません。

インドの女性

- ▶ 最も多い児童婚数
- ▶ 結婚全体の約1/3が児童婚
- ▶ 現在、15歳から19歳の女子の16%が結婚しており、男子は15%が結婚している。



インドでは、法律で定められた結婚年齢に満たない結婚である児童婚の多い国です。

インド全体の結婚件数の3分の1が児童婚です。

現在、15歳から19歳の少女の16%が結婚しており、男子は15%です。

インドの女性



▶持参金目当ての少女への隠れた犯罪率が高い。

▶しかし:

公式には、離婚率が低い。

12

持参金の伝統があるため、女性や少女に対する隠れた犯罪が高い確率で発生しています。

インドでは何十年も前から持参金に対する法律がありますが、現実には効果がありません。

持参金は結婚の条件であり、耐久消費財や現金、その他の財産が花嫁の家族から花婿とその家族へ贈られます。

持参金によって、結婚したばかりの女性は経済的にも社会的にも新しい夫と結ばれます。持参金は、花嫁の家族からさらに多くのお金を受け取るために、脅しや人質として使われることもあります。持参金に関連した詐欺、残虐行為、花嫁の自殺、持参金殺人などの女性に対する暴力が、特にインド北部と東部で花嫁を脅かしています。

インドは世界でも最も離婚率の低い国の一つであり、結婚の約1%が離婚に至っています。これは、女性の経済的な自立度が低く、恋愛関係でなくても、暴力的な関係であっても、関係を続けざるを得ないということの表れかもしれません。

インドにおける児童婚の「主な原因」

以下による社会的、経済的
圧力:

- 貧困
- 飢饉
- 古くからの伝統
- 非識字
- 持参金制度



13

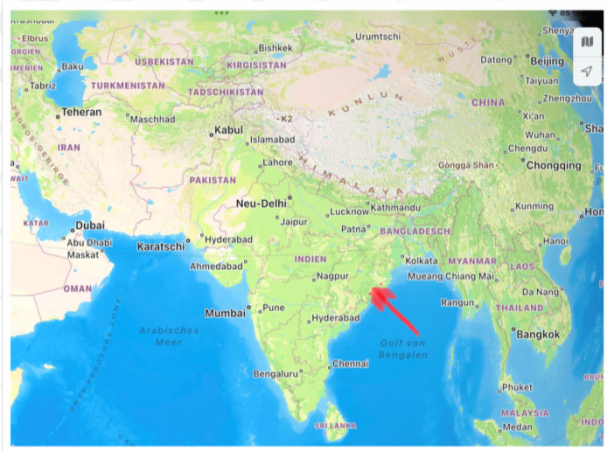
貧困、飢餓、古くからの伝統、非識字、持参金などによる社会的・経済的圧力が、インドにおける児童婚の主な原因となっています。

現地視察の参加者は、思春期の少女たちから体験談を聞く機会を得ました。少女たちから報告された典型的な状況は、父親が亡くなり、そのほとんどがコロナが原因だったというものでした。母親は子供たち全員を養うために苦勞しなければなりません。子供を結婚させることは、母親が他の子供たちと一緒に生きていくための解決策でした。

また、他の少女は、自分が孤児であり、新しい家族になるための手段として結婚を勧められたと報告しました。

このような状況では、少女たちは結婚することが危険なことでした。

オディシャ州



- ▶人口: 4,200万人
- ▶主に農村部に居住 (83%)
- ▶部族 (先住民)、カースト人口が多い (第3位)
- ▶サイクロン、洪水、干ばつに対して脆弱な州である。

14

インド北東部、オディシャ州の州都ブバネシュワルで、「児童婚をなくすためのグローバルプログラム」のメンバーが集まりました。

オディシャ州はインドで8番目に大きな州で、人口は約4200万人です。

オディシャ州の人口の83%が農村部に住み、都市部ではわずか13%しかいません。

オディシャ州には部族 (先住民) やカーストの人口が多く、インドで3番目に多い地域です。

オディシャ州の人口の40%は、指定部族 (23%) または指定カースト (17%) です。彼らは、社会経済的な打撃に対して最も脆弱です。同州には、特に脆弱な13の部族が住んでいます。

地理的には、オディシャ州はサイクロンと沿岸部の洪水に対して脆弱な地域であり、西部の11地区は干ばつに見舞われる傾向にあります。

オディシャ州



読み書きできる女性は69.5%、
男性は84.6%



15

非識字は児童婚の重要な要因として認識されており、少女が学校を中退する場合の結果でもあります。

オディシャ州の男性の84.6%が読み書きができるのに対し、女性は69.5%にとどまっています。

オディシャ州の女性と少女

- 10年間学校に在籍している女性は33%、男性は38.6%
- 男子1,000人あたり女子894人
- 女兒の新生児専門医療機関への入院は少ない。
- 貧血
- 娘を望む人はわずか 2%に対し、息子を望む人は13%



16

オディシャ州では、10年間学校に在籍している女性は33%、男性は38.6%しかいません。22%の女子が中等教育から退学しています。

オディシャ州の出生時の性比は驚くべき数字で、男性1,000人に対し女子はわずか894人です。これは、同州の女兒の価値が低いことを示しています。

オディシャ州の新生児死亡率は全国で最も高く（出生1,000人当たり32人）、都市と農村の格差が著しいです。男女間の不平等、特に女兒の新生児専門医療機関への入院が少ないことも懸念されています。

また、思春期の少女や妊婦の貧血も、女性や赤ちゃんの命を奪う重大な問題です。

統計によると、オディシャ州の人々は娘よりも息子を望むことが分かっています。娘を望む人はわずか2%であるのに対し、息子を望む人は13%です。

オディシャ州の女性と少女



しかし、

- 10代の妊娠は 2005年からほぼ半減している。
- 1995年以降、児童婚数が半分以上減少し、現在は少女が 20.5%、男子が 13.3% である。

しかし、オディシャ州の児童婚や10代の妊娠に関しても改善が見られます。

2005/06年から2015/16年までの10年間で、10代の妊娠数はほぼ半減しました。現在、この5年間は停滞しています。

また、子どもの花嫁の数は1995年以降、45.5%から現在は20.5%と半分以上減少しています。男子の13.3%でさえ、18歳未満で結婚しています。

児童婚に対する戦略

戦略的行動計画

目標:2030年までに児童婚の無い州を宣言する。

方法: 下記の協力のもと、青少年を精神的に強くし、エンパワーする:

- 政府のあらゆる部門
- 市民社会
- 地域および村
- 家庭、学校
- UNFPA-UNICEF「児童婚をなくすためのグローバルプログラム」



19

ユニセフとUNFPAは、2030年までにオディシャ州を児童婚の無い州にするために、2019年に政府の複数の部局と緊密に連携して、複数部門からなる「児童婚を終わらせる戦略的行動計画」を起草しました。

どのようにこれを達成したいのでしょうか？

これは、政府のさまざまな部門、市民社会、地区、地域、村、そして家庭や学校が、ユニセフとUNFPAのグローバルプログラムとともに、結束し収束する努力によって達成されるものです。

ADVIKA – 「全ての少女は大切です」



仲間のリーダーとなる少女 (Sakhi Sahelis)は、

- 少女達のグループをリードする。
- ライフスキルのトレーニングをする。
- 児童婚、児童労働、児童人身売買、児童性的虐待について情報を提供する。
- Whatsアプリグループのリーダーは連絡を取り合い、子供たちの声を上げ、情報を伝える。



20

この行動計画の重要な要素は、「ADVIKA - Every Girl is Unique (アドヴィカー 全ての少女は大切です)」プログラムで、2020年10月11日の「国際ガールズ・デー」にユニセフとUNFPAの共同で開始されました。このプログラムは州全体の計画に転換され、国連機関の現地パートナーであるActionPlanが実施をサポートしています。地域や地方行政とも密接に連携しています。

ADVIKAは、思春期の少女や男の子に手を差し伸べ、子どもの権利、性と生殖に関する健康、ジェンダー、子どもの保護、栄養などについて情報を伝えています。この写真は、このプログラムに参加した思春期の子供たちが、自分の考えを述べたり、経験を報告したりしているところです。

「Sakhi Sahelis」と呼ばれるピアリーダー（仲間のリーダー）となる少女たちを特定し、スキルを身に付けます。彼女たちには、ライフスキルの構成要素や児童婚、児童労働、児童人身売買、児童性的虐待などに関する重要なメッセージについて基本的なオリエンテーションを行っています。

コロナ禍の中、デジタルへの取り組みを促進するため、ピアリーダーによるWhatsAppグループが結成され、少女たちが声を上げ、自分たちに影響を与える問題について正しいメッセージを発信できるよう、有意義な活動が行われました。

右上にあるのは、ADVIKAのロゴとキャッチフレーズで、どこでも目に付くように作成されました。

そして、ADVIKAの少年たち



彼らは次のような教育を受ける:

- 性と生殖に関する健康
- 児童婚
- 子どもの権利

電話ライン: チャイルド・ヘルプライン

ADVIKA アプリの活用

21

ADVIKAプログラムには、男の子も含まれています。彼らは、性や生殖に関する健康、児童婚、子どもの権利などについて教育を受けています。

この写真で、黄色いタスキをつけている男の子は、危険な状態にある子どもたちの為の電話相談「チャイルド・ヘルプライン」について伝えています。

この少年は非常に勇気をもって児童婚に取り組み、なぜ児童婚が少女や少年にとって有害なのか、なぜ自分がこのプログラムに関わっているのかを来場者に説明しました。

ADVIKA appとは

- ▶ 少女たちがデジタルで関わるための学習プラットフォーム
- ▶ デジタル技術や就業能力に関する精選された講座の提供
- ▶ 金融や経済に関する知識

青少年の1/3が自分専用の携帯電話を持っている。

学校や地域施設でも携帯電話の利用が可能である。



さらに、ITパートナーと共にADVIKAアプリを立ち上げ、少女や少年にデジタル技術や就業能力、金融知識に関する精選されたコースを提供する補助的な学習プラットフォームを作成しています。

インドでは携帯電話が非常に普及しており、青少年の約3分の1が自分専用の携帯電話を持っています。携帯電話を持っていない人たちのためには、学校や地域施設で携帯電話の利用を可能にし、全ての人を繋ぎ、対象となるグループを指導します。

ADVIKA トレーニング



23

ADVIKAのトレーニングは、幼少期からすでに始まっています。

真ん中の写真は、先生がADVIKAのロゴの入った箱を見せているところです。子どもたちはそれを苦悩の箱として、伝えたいメッセージを発する助けとして使うことができます。

左側の写真では、思春期の少女が児童婚を脱した経緯を話してくれました。彼女は、今、テコンドーを練習しており、大会にも参加しています。大人になったら、他の女の子を守るために警察官になりたいと言っています。

ADVIKAを通して、オディシヤ州の100万人の思春期の少女と男の子に、子どもの権利や、毎週土曜日発行の思春期カレンダーなど、ADVIKAからの重要なメッセージが伝えられました。

Nirbhaya Kadhi –果敢な思春期の少女達のために

村の委員会は、意識を高め、弱い立場の青少年を把握したり、現場のソーシャルワーカーを支援する。

関係者、大人、伝統的指導者のためのプログラムを企画する。

「児童婚反対のリーダー達」として表彰する。

大規模な宣誓キャンペーンを実施する。



24

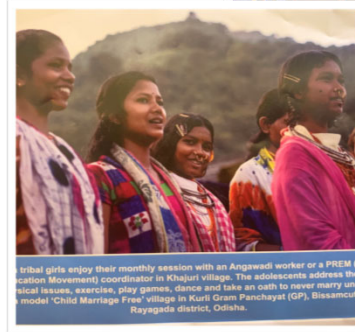
村には委員会があり、児童婚の問題に対する意識を高め、弱い立場の青少年を把握したり、現場のソーシャルワーカーを支援しています。毎週土曜日は「ニルバヤ・カディの日」と定められ、あらゆるレベルの委員会が、それぞれの分野で思春期の少女たちと関わり、交流しています。

定期的に行われる啓発セッションは、プログラムの持続可能性を確保するのに役立っています。このセッションには、作文コンテスト、ディベート、図画コンテスト、意識向上集会などがあり、その後、生徒たちによる宣誓式が行われます。

「Nirbhaya Kadhi」プログラムは、「Fearless Leaders」（果敢なリーダーたち）の育成の一環として、地区内の学校の生徒を対象とした大規模な宣誓キャンペーンを実施しています。

宣誓の儀式には、小学校や高校の生徒のほか、女性自助グループのメンバー、看護師、助産師など、医療施設で働く人々が参加しました。

果敢な思春期の少女達



自ら児童婚を防ぐことに成功した青年、少女、少年は、"Leaders against Child Marriage" (児童婚反対のリーダー達)として表彰されています。彼らはまた、様々なフォーラムに参加し、自分たちの経験談を共有します。さらに、児童婚の廃止と青少年のエンパワーメントに取り組む関係者の貢献を確立するため、地区レベルで伝統的指導者フォーラムが結成されました。私たちは、「果敢なリーダー」のメンバーと話す機会を持ち、彼らに何が起こったのか、どのように児童婚を免れたのかについて話を聞くことができました。

彼らは、ライフスキルのトレーニングが効果的に彼らをエンパワーすることを実証しました。

恵まれない思春期の子供達へのエンパワーメント

- 部族とカースト出身の思春期の少女を対象とした奨学金制度を設ける。
- 地域社会の「改革者」としてのスキルを身につけるよう指導する。
- ライフスキル・プログラムを提供する。
- 使いやすい点字、触覚教材、動画ファイルによる恵まれない思春期の子供達への学習ツールを提供する。



26

オディシャ州の恵まれない青少年をどのようにエンパワーするのか？

指定部族と指定カーストの青少年少女約100万人に奨学金を支給し、教育を継続できるように支援しました。

部族の青年たちは、生計や事業の促進を通じて、地域社会の「チェンジ・エージェント（改革者）」として活動できるよう指導されてきました。

障害を持つ青少年に、性と生殖に関する健康と権利に関する情報を提供するため、UNFPAは、使いやすい学習ツール、トレーニング教材、点字・触覚教材や模型、手話通訳とスクロール文字付きのビデオファイル、その他の特別支援学校向けにコミュニケーション教材を開発しました。

子供の日

- 各四半期末の14日
- 地区や村のレベルで児童保護委員会会議を開催する。
- 子供に関する問題、子どもの保護体制の強化、計画の実施について検討する。
- 青少年のリーダーたちの会議に参加し自分たちの問題を共有する。



各四半期末の14日は「子どもの日」として宣言されています。

この日、地区や村のレベルで児童保護委員会の会議が開かれます。子どもに関する問題、子どもの保護体制の強化、計画の実施について検討されます。青少年のリーダーたちは、この会議に参加し、自分たちの問題を共有するよう奨励されています。

児童婚の無い村

- 地域と村
- 大人、両親
- 学校
- 村のリーダー
- 部族のリーダー
- 思春期の子供達

が、共同戦略で「児童婚の無い村」を宣言する。



28

地域社会や青少年を動員して「児童婚の無い村」を宣言する取り組みが2019年にスタートしました。

ある村から始まったこの取り組みは、他の村でも注目されました。他の村もそれに続き、児童婚の無い村を宣言しました。オディシャ州はこれを最も素晴らしい実践として認め、すべての地域に同様の取り組みを行い、子どもたち、特に少女が児童婚を終わらせるための環境づくりに向けて、主導権を持つよう、地域住民を動員するよう指示しました。

この写真では、村のリーダーや教師が、児童婚を無くすことで、何故自分たちの村が恩恵を得ることができるのか、その理由を説明しています。

児童婚の無い村



児童婚の無い村であることについての宣言や看板が「SayNoToChildMarriage（児童婚にNOと言う）」というハッシュタグとともに街のあちこちで見受けられます。

児童婚に反対する寺院



寺院は、子どもの結婚式を行わないという宣言文を外壁に掲示した:

「法定年齢以前の結婚は処罰の対象となり、この寺院では違法な結婚は許さない。」

また、村の寺院は子供の結婚式を行わない寺院であることを宣言しました。通常、結婚式は寺院で執り行われるものなので、これは大きな成功です。

児童婚に反対する寺院

これらの宗教指導者は、児童婚を終わらせるために村を支援し、古からの伝統を児童保護に転換させることに誇りを持っている。



31

私たちは、村の宗教指導者と話す機会がありました。彼らは子供の結婚式を行わない寺院であることを誇らしげに私たちに説明しました。

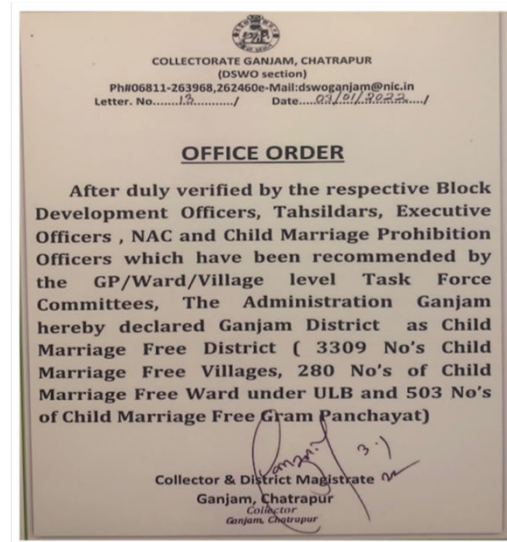
この一歩で、児童保護に向けた古くからの伝統の真の転換が成し遂げられたのです。

児童婚の無い村・寺院

2020年1月3日、ガンジャム県の行政は、同県を児童婚禁止地区とすることを宣言した。

法務省令: 宗教的な場所での児童婚の禁止

現在、10,000の村は「児童婚の無い村」である。



2022年1月3日、ガンジャム県の行政は、ついに同県を児童婚禁止地区であることを宣言しました。

さらに、オディシャ州では、宗教的な場所や施設での児童婚禁止の告知を表示する法務省令が可決されました。

すべての寺院で、結婚前に双方の年齢証明の確認が義務づけられています。

現在、10,000の村が児童婚の無い村を宣言しています。

オディシャ州の取り組み

- 10万人の「仲間リーダー」がスキルを取得
- 30万人の 青少年がスキルを取得
- コミュニティトレーニングを受け変化した人たち:
 - 1,156,429人の女性
 - 109,047人の男性
 - 239,086人の思春期の少女達
 - 61,067人の思春期の少年たち
 - 3,000人の伝統的指導者



33

10万人の少女がピアリーダー（仲間のリーダー）として認定され、スキルを身につけました。

ADVIKAを通じて、30万人の思春期の少年たちに手を差し伸べました。

ユニセフとそのパートナーである「アクション・エイド」は、啓発活動、能力開発活動、社会的行動を変えるための活動を通じて、オディシャ州の15地区の地方行政に技術支援を提供しました。

全体として、スライドの数字からもわかるように、膨大な数の女性と男性、そして思春期の少女と少年、そして3,000人の伝統的な指導者に援助の手を差し伸べました。

オディシャ州の取り組み

- 1,157の部族の学校でライフスキル教育プログラムを実施する。
- 155校に障害者用用具を設置する。
- 30,343人への青少年に、高等教育に進むための現金支援
- 100万人の部族やカーストの思春期の少女たちが、奨学金を得て学校に通い続ける。



34

1,157の部族の学校で、ライフスキル教育プログラムが実施され、約15万人の少女に支援が届いています。このプログラムでは、健康的な生活を送るための知識、スキル、態度を身につけ、脆弱性のある児童婚や10代の妊娠などに対処しています。

155の特別な学校には、障害を持つ青少年のための特別な教具が備えられています。

3万人以上の青少年の少女と少年が、高等教育や技能訓練のための現金で直接支援されました。

指定部族と指定カースト制度のコミュニティの約100万人の思春期の少女が、教育を続けるための奨学金の支援を受けました。

地区と州の代表者と共に

フィードバック

承認

意見交換

質疑応答



地区や州の代表者とも会い、意見交換を行いました。

インド政府（デリーにて）： 保健・家族福祉省



36

帰路、首都ニューデリーでは、インド保健家族福祉省に招かれ、寄付団の代表者が感想や意見を述べました。

良い結果 – 良好な協力関係によるもの

- 児童婚の件数の減少
- 10代の妊娠の減少
- 2022年1月—8月: オディシャ州で1,855件の児童婚が防止された。(比較すると、2019年は657件)

成功の秘訣:

児童婚を終わらせることを村独自の課題にしたこと!



37

現地視察団のメンバーは、州、地区、村の各レベルで、すべての関係者が力を発揮し、関わっていることを大変喜んでいました。青少年を含めることで、彼らの声を聞くことができ、彼らの目線で協力者になることができます。これによって、彼らは弾力的で自己決定力のある大人に成長することができるのです。

このスライドでは、この数十年でオディシャ州の児童婚の数が減り、10代の妊娠を半減させることができたことをグループでお祝いする様子が見られます。

2020年1月から8月の間に、オディシャ州では1,855件の児童婚が防止されました。これは、児童婚が657件しか防止されなかった2019年の数字と比較すると、大きな成功です。この増加は、あらゆるレベルでの良好な協力関係により、取られた戦略が効果的であることを示しています。

持続可能な成功への鍵

州レベルの目標として、エンパワーメントの統合プログラムとしてスタートした。

伝統や行動の変化とともに村独自のプロジェクトに移行した。



38

今回の訪問で判明した事は、児童婚を無くすための州レベルの目標が、思春期にやさしい病院や州から独立した予算を持つといった他の要素が加わり、村独自の課題と戦略にと変化したことでした。

ユニセフ、UNFPAや村の協力者の支援を受けて、有害な慣習に終止符を打ち、子どもの権利を持続的に保護するために、村の人々は州レベルから始まったプロジェクトを、自分たちの取り組みとしました。これこそが、持続可能な成功の鍵であり、古くからの伝統を変える鍵なのかもしれません。

私たちは、すべての協力者のビジョンとエネルギーに深く感銘を受けました。

国連ハウスでの報告会（デリーにて）



ニューデリーの国連ハウスでは、デリーに拠点を置くユニセフやUNFPAの代表者が多数参加し、報告会を開催して現地訪問を終了しました。

参加者全員にとって、世界的に児童婚をなくすための闘いは重要な目標です。これは、国連が掲げる17の持続可能な開発目標の一つであり、2030年までに達成しなければならない目標です。このため、冒頭で述べたこのプログラムの寄付者が財政的に関与しています。

その中で、ゾンタは少し異質とも言える存在です。なぜなら、私たちは、ゾンタ女性財団に寛大な寄付をして、このプログラムを支援しているだけではないのです。この12カ国だけでなく、ゾンタの会員がいる世界中の国々で、児童婚に反対する世界的な提唱者なのです。これは、ゾンタがこのプログラムをより効果的にするために貢献できる更なる段階なのです。

ゾンシャンは、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカ、オセアニア、アジアでも児童婚に反対する声を上げ、行動を起こすよう要求しています。そして、児童婚がもはや伝統として容認されるのではなく、女性や子どもの権利の侵害であると見なされるようにすることができます。

私たちゾンシャンは、女性と少女のためのより良い世界を築くために、共に変化を起こすことができます！

ゾンタへの情熱、活動、時間やアイデアの提供、ゾンタ女性財団への寛大な寄付をありがとうございます。これらの寄付がなければ、ゾンタの声を世界的に高めることはできませんでした。

ご清聴ありがとうございました!!



ご清聴ありがとうございました！